

さいたま市文化財時報

かや 権りぼーと

第38号

かね 金の光は阿弥陀ほど[※]

—さいたま市内の阿弥陀如来—

浄土宗の開祖・法然上人^{ほうねん}が没して来年で800年。浄土宗の宗旨は、「南無阿弥陀仏^{なむあみだぶつ}」を唱えれば必ず仏の救済を受け、臨終に際して極楽浄土へ導いてくれる(来迎^{らいごう})というもので、その本尊は極楽浄土におわします阿弥陀如来です。この阿弥陀如来は日本で一番信仰された仏で、今でも、その光背^{こうはい}から連想された「阿弥陀籤」などの言葉で親しまれています。

それではこの阿弥陀如来、市内に残る文化財にはどんな姿で残っているのでしょうか。

阿弥陀如来の指先に注目！—九つの「印」—

阿弥陀如来の姿は一樣ではありません。ただ単に立像か坐像かの違いではなく、その差を理解するにはまず、指先に注目する必要があります。仏像の指先の形状を「印」といい、それぞれの仏像は特有の「印」を持っています。中でも阿弥陀如来には九つの「印」があり、それぞれ意味するものが違います。まず、両方の手や指が体の前のどこに置かれているかについて見て行きましょう。「長伝寺「絹本着色阿弥陀如来画像」(市指定、中央区)では左右合わせて一つの輪を作り、膝の上に置かれています。これが「(阿)弥陀の定印」という最も一般的なもの。しかし、廓信寺の「木造阿弥陀如来坐像」(県指定、浦和区)は左右の手が少し離れて、位置も胸前にあります。「説法印」と呼ばれるもので、聴衆に説法していることを表現しているといわ



▲長伝寺「絹本着色阿弥陀如来画像」



▲木造阿弥陀如来坐像(廓信寺)



▲阿弥陀如来坐像(永福寺)

※金の力は強大で、阿弥陀如来の威光と同じくらいの力があるという意味

れています。また、「阿弥陀如来坐像」(市指定、永福寺、桜区)、「阿弥陀三尊像」(市指定、無量寺、南区)、「阿弥陀堂木造阿弥陀如来坐像」(市指定、阿弥陀堂、西区)、「木造阿弥陀如来立像」(市指定、浄安寺、岩槻区)は左右の手が大きく離れ、右手を挙げ、左手を下げています。これは「来迎印」と呼ばれ、阿弥陀如来が来迎する際の印なのです。つまり、両方の手や指の位置は3種類ある事になります。そしてその上で、指先は第1指(=親指)と第何指がついているのかを見る必要があります(第2指、第3指、第4指の3種類あります)、3種類ずつの組み合わせで合計9種類の「印」(上品上生から下品下生まで)があります。蛇足ですが、東京都世田谷区の浄真寺はこの9種類の阿弥陀如来を安置するために、別名「九品仏」と呼ばれています。

阿弥陀如来が衆生を救う

先ほどの永福寺の「阿弥陀如来坐像」、無量寺の「阿弥陀三尊像」、阿弥陀堂の「阿弥陀堂木造阿弥陀如来坐像」、浄安寺の「木造阿弥陀如来立像」は「来迎印」を結んでいるため、臨終間近の人を極楽浄土に迎えるために阿弥陀如来が天から降りてくるという「来迎」の考えを表しています。これらは彫られた仏像であるため静止していますが、飛雲に乗って実際に迎えに来るといった動的な「来迎」を表現したものとして大興寺所在の「来迎阿弥陀三尊板石塔婆」(市指定、緑区)、や上野田の東台墓地所在の「延慶三年銘図像板石塔婆」(市指定、緑区)があります。蓮台に乗った阿弥陀如来が「雲」とともに描かれていて、今まさに、天から降りてきたという事を表現しています。この二つの板碑に描かれているのは阿弥陀如来のみですが、「正圓寺「板影阿弥陀聖衆来迎図」」(市指定、中央区)では多くの仏が迎えに来る様子を表現しています。左端が阿弥陀如来で、蓮台を持つ観音菩薩(阿弥陀の向って右下)など多くの聖衆を従えています。

また、市内にその例はありませんが、一時でも早く極楽に迎えようと、雲の尾を長くなびかせ、そのスピード感を表したものが「早来迎」と呼ばれ、京都・知恩院の「阿弥陀二十五菩薩来迎図」(国宝)の例が有名です。中には、乗る蓮座も一つだけでなく、両足がそれぞれ別の蓮座に乗って踏ん張った形を表現して(踏み割り蓮座)、来迎時のスピードに耐える安定感を持たせたものもあります。



▲来迎阿弥陀三尊板石塔婆(大興寺)



▲正圓寺「板影阿弥陀聖衆来迎図」(部分)

なお、山の向こう側で上半身だけを見せる「山越の阿弥陀」も「来迎図」の一種です(京都・永観堂禅林寺「絹本著色山越阿弥陀図」=国宝)。

長野・善光寺の本尊は阿弥陀如来？



▲阿弥陀如来三尊像(観音寺)

真っ暗な通路を通り、本堂下にある「極楽浄土への鏡前」に触れるという「戒壇巡り」で有名な長野・善光寺。その本尊も阿弥陀如来です。いや、阿弥陀如来だといわれています。というのは、善光寺の本尊は秘仏で、一般にはだれも見たことがないからです(御開帳などで目にするものは忠実に模したといわれる「お前立」です)。この善光寺の本尊を模したとされるものが「善光寺式阿弥陀三尊」といわれ、特色ある形式で各地に残されています。つまり、①三尊とも立像で、その三尊全体を一つの大きな光背が覆う ②中尊・阿弥陀如来の「印」が「刀印」と呼ばれる独特のもの(左手の人差し指と中指をのばし、他の指は曲げている) ③両脇侍(観音・勢至)は胸前で両手の掌を水平に重ねる というものです。これらの特徴が一つでもあれば、それは「善光寺式阿弥陀三尊」といっても過言ではありません。市内ではこの「善光寺式阿弥陀三尊」が、守光院(銅造阿弥陀如来立像、市指定、南区)と観音寺(阿弥陀如来三尊像、市指定、桜区)に残されています。

板碑の中の阿弥陀如来

市内には多くの板碑がありますが、その中で信仰の対象になっている多くが阿弥陀如来です。緑泥片岩を使用した中世の供養塔である武蔵型板碑の上部には、阿弥陀如来を表す「キリーク」という梵字が彫られる例が圧倒的に多く、全体の7割程度といわれています。それだけ阿弥陀如来への信仰や浄土世界へのあこがれが強かったことが感じ取れます。市内では紀年銘のあるものとしては岩槻区善念寺跡の例(阿弥陀板石塔婆、市指定、岩槻区)が最も古く、ここにキリークが彫られています。同じキリークでも一般的なキリークの他に、「莊嚴体」と呼ばれる装飾されたキリークもあります(阿弥陀三尊種子板石塔婆、市指定、南区真福寺墓地)。また、梵字を彫るのではなく、阿弥陀如来に全面的に帰依するという意味の「南無阿弥陀仏」という文字(六字名号)を彫る例もあります(真福寺板石塔婆、市指定、北区)。「ナンマイダ」で有名なあの「南無阿弥陀仏」です。

板碑では梵字で阿弥陀如来を表現するだけでなく、阿弥陀如来の姿を彫るものもあります。「阿弥陀三尊図像月待供養板碑」(市指定、岩槻区願生寺)では図像を彫り、「来迎」を示すように、前傾姿勢で「踏み割り蓮座」に乗って足を踏ん張っている姿が彫られています。

阿弥陀如来への信仰は、室町時代になると月待信仰とも習合し、先の「阿弥陀三尊図像月待供養板碑」や「片柳板石塔婆」(市指定、見沼区、個人)などでその例を見ることが出来ます。



▲阿弥陀板石塔婆
(善念寺跡)



▲梵字の例(法願寺板石塔婆群、市指定、西区)



▲六字名号の例(真福寺板石塔婆)



▲図像の例(阿弥陀三尊図像月待供養板碑、願生寺)

※ここで引用したのは一例で、他にも多くの例があります。また、一般には公開されていない文化財もあります。

TOPICS

●さいたま市指定文化財の解除

下記の指定文化財〔記念物（天然記念物）〕を平成22年6月30日付で解除しました。現在の指定件数522件。

名 称	所 在 地	解 除 理 由
小満の榎 1本	岩槻区大字小満685番地	倒壊
キャラ 1株	浦和区常盤1丁目8番28号(常盤公園)	枯衰
氷川参道の並木22本のうち2本	大宮区吉敷町～高鼻町	枯衰による倒壊の危険性

●指定都市文化財行政主管者協議会がさいたま市で開催されました。

毎年、政令指定都市の文化財行政の課題等を話し合う標記の会議が、今年は7月29日(木)に、「With You さいたま」を会場として開催されました。18の政令市が一堂に会し、全体会のあと、文化財一般と埋蔵文化財の分科会に分かれて協議が行われ、30日(金)には見沼通船堀等を視察していただきました。

●最新出土品展 開催中 見学無料（会場によって展示資料が若干変わります）

市内各所で実施した発掘調査の様子や出土品（二軒屋式土器〈下記写真〉等）を展示しています。

会 場	期 間	時 間
プラザウエスト (☎858-9080)	10月13日(水)～10月18日(月)	9時～21時30分
プラザノース (☎653-9255)	10月20日(水)～10月25日(月)	
プラザイースト (☎875-9933)	10月27日(水)～11月1日(月)	
さいたま市立博物館 (☎644-2322)	11月3日(水)～11月14日(日) 休館日4日、8日	9時～16時30分

●さいたま市遺跡発掘調査成果発表会 入場自由・申し込み不要

最新出土品展開催に伴い、埋蔵文化財担当者による発掘調査の成果を発表します。

- 日時 平成22年11月6日(土) 10時30分から15時30分（休憩有）
- 会場 さいたま市立博物館 講座室



●発掘調査現地説明会のご案内

岩槻区太田2丁目地内で実施中の岩槻城跡発掘調査現地説明会を11月20日(土)10:00～、13:30～の2回行います。詳しくは文化財保護課におたずねください。※雨天の場合…中止 ※駐車場…ございません。

さいたま市内指定無形民俗文化財の公開カレンダー（平成22年10月～平成23年1月）

天候などにより日程が変更することもありますので、詳しくはさいたま市のWebページをご覧ください。文化財保護課 (☎829-1723) までお問合せください。見学無料。

名 称	日 時 ・ 場 所 ・ 内 容
南部領辻の獅子舞（市指定）	10月17日(日) 13時～ 鷲神社（緑区大字南部領辻2914） 別名「竜頭の舞」。三頭の獅子による勇壮な獅子舞です。
岩槻の古式土俵入り〔釣上地区〕 （国指定）	10月17日(日) 13時40分～ 神明社（岩槻区大字釣上220） 男子の健康と成長を願い、子どもたちが土俵入りを奉納します。
一山神社冬至祭（市指定）	12月22日(水) 14時～ 一山神社（中央区本町東4-10-14） 一年間の穢れを祓い、新年の無病息災を願う火渡りを行います。
指扇の餅搗き踊り（市指定）	12月31日(金) 23時30分～ 五味貝戸自治会館（西区指扇291） 万作踊りと餅搗き踊りを公開します。
日進餅つき踊り（市指定）	1月1日(祝) 0時～ 日進神社（北区日進町2-1194） 年明けの鐘とともに始まる餅つき踊りです。

さいたま市文化財時報

榎りぼーと 第38号

平成22年9月30日

〈編集・発行〉

さいたま市教育委員会 生涯学習部 文化財保護課
☎330-9588 さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号
☎048-829-1723 ㊟048-829-1989
<http://www.city.saitama.jp/>

この刊行物は1,200部作成し、1部あたりの印刷経費は46円です。